

	<p><b>短歌</b></p> <p><b>日本航空安全啓発センター</b></p> <p><b>SCE・Net 三平忠宏</b></p>	<p><b>L-4</b></p> <p>発行日 2019.11.19</p>
---	--	---

日航機の墜落事故後ことしにてはやも過ぎたり三十三年  
わが居りし社は七名を喪ひぬ御巢鷹山に日航機墜ち  
墜落の二十年後に出来しとぞ日航安全啓発センター  
日航のビルの内にて御巢鷹の残存機体を展げ見すとふ  
安全を社員が学ぶ場たりしが一般人にも見せると知りぬ  
技術者の仲間と訪ひて墜落の機体・遺品をくはしく見たり  
日航のメンテナンスセンターは新整備場の駅より二分  
入館のカードかざして扉を開けぬ人あらためは厳しかりけり  
日航機の墜落事故の七件が掲げてありぬ最初の部屋に  
初めての「もく星号」の墜落はわれが小学五年の時ぞ  
破断せる飛行機各部が長大な部屋の真中を連ね占めゐき  
紙のやうに破れひしやげし切れ端を集めて成せり飛行機の形  
御巢鷹に墜ちし機体は砕け散り数キロ四方に集めしと聞く  
大小の破断片にて組みありぬ墜落せし機の垂直尾翼  
真つ先に壊れし垂直尾翼なり各地に破片を集め来しとぞ

十メートル以上あらか目の前に横置きされし垂直尾翼  
破断せる垂直尾翼の赤き弧は鶴丸マークと直ぐに分かりぬ  
椀のやうな後部圧力隔壁は二つ割りにてひろげ見せぬ  
墜落機の胴は後ろの一部のみ輪切り四つに展示されあり  
墜落機の前部は展示が出来ぬほどばらけ壊れてゐしと想ひぬ  
貼られぬし金属板の半分は剥がれ落ちたり圧力隔壁  
隔壁の短冊状の止め板は厚さ数ミリ驚きにけり  
突然に隔壁壊れ噴気にて垂直尾翼を失ひしとぞ  
従前の隔壁補修に抜けありき構造説かれ怒りを覚ゆ  
回収のボイス・フライトレコーダー箱の中にて姿は見えず  
ディスプレイの壁に描かる迷走の海から山へ飛行の経路  
図に示すダッチロールの航跡に乗客たちの恐怖を想ひぬ  
ひしやげぬて形とどめぬ座席あり墜ちし機体の前部のものとぞ  
原形をなほ保ちぬて展示あり墜落機体の後部の座席  
墜落機の客席後部に四名が生き延びしことを思ひ起こしぬ  
奥まつて展示されあり墜落に亡くなりし人の遺書とメモ書き  
激動の機中に記ししメモなれば字は乱るるも確かなる文  
報道に文の内容知りぬしが実物を読み胸が痛みぬ

わが居りし社にて見知れる T 君の遺書を見つめて涙ぐみたり

まつさきに妻の名書きて子を頼む簡潔なるや T 君の遺書

遺書を記す袋のなかに T 君は入れ置きしとぞ運転免許証

事故に遭ひ働き盛りの T 君は死を覚りつつ口惜しかりけむ

事業部が違ふも会社に T 君と言葉交はしし時がありけり

墜落の機体と遺品に思ひたり安全技術はことさら難しと

プラントの安全維持の研究をなほ続けむときつかけを得ぬ

2018 年 11 月 13 日に神奈川研究会による日本航空安全啓発センターの見学会があり、お誘いを受けて研究会員ではない私も参加させていただきました。日航機の墜落事故により私の出身会社では 7 名の社員を喪っており、機の残骸や遺品を見ながら実際の状況を詳しく把握したいと思ったのです。

限られた時間ではありましたが、多くの展示物と日航社員による説明に大きなショックを受けました。歌人の私は見学の内容を四十首の短歌にまとめ、所属する未来短歌会の歌誌「未来」の 2019 年 2 月号から 5 月号まで、毎月十首ずつを出詠しました。今回それらをまとめて発表いたします。